斗争ニュース No.7

坂井発動機製作所争議団
向島区吾嬬町 五ノ五五 工聯本部内

1935.5.10

第二回交渉決裂し
争議団代表席を蹴って起つ
葛飾警察署長慰留に努めつゝ調停の労をとる

五月九日午后一時葛飾警察署長の調停申込みにより、警察署内に於て争ギ団代表南、伊藤、安藤、廿橋、住吉、の諸君、坂井工場側は坂井工場主、松崎事人員、山田、警察側は署長、高等主任、高等係刑事によって交渉の幕は切って落された。坂井工場主側は結婚問題の根本に触れやうとせず、只管枝葉末節の愚にもつかぬことを持ち出して何等解決の誠意を示さず、あまつさへ山田なる人間は総同盟の赤羽支部長を勤めたとか川口の町会議員に選出されたとかの触れ込みではあるが少しも交渉の能力なく資本家に身賣りした労働運動者崩れの醜態をバクロし列席者の物笑ひとなったに過ぎない、かくては埒あかずとなし、何論争ギ団側は持久戦の覚悟で口先の交渉位でまとまるなどとは毫も考へ居らず予定通りのプログラムに従って進んだ。彼等坂井側の頑迷度し難く秩序立った交渉に応ぜず、事毎に問題を錯綜、混乱に導き紛糾させやうとする底意を看破した争ギ団側南代表は憤然起って決裂を宣し席を蹴るや署長の周章狼狽その極に達し懸命に慰留に努めつゝ坂井側も亦平身陳謝するといふ珍風景裡に第二回交渉は遂に完全に決裂し第三回交渉は五月十日に行はれることに合意して散會し争ギ団代表は元気益々旺盛に団員諸君に迎へられ威勢よく決裂報告をして大いに気を吐き益々結束強固に次の得意の攻ゲキ戦術について討議決定する処あった。

坂井工場に於ける
製品のインチキ斯くの如し
大量生産と能率第一主義

坂井工場の製品は主として農耕用の小型発動機である。この生産に於ては質よりも量を主とし能率をあげて数を多く出すといふ方針だから良品の出来る筈がない。従って少々位悪い奴はあっても凡てパスさせるといふ拙速主義だからやり切れない。

材料が悪いから不良品は当然だ

坂井が職工に渡す材料の悪いのは定評がある。材料が悪いから製品の良いものが出来るわけがない。それであって不良品が返還されたり、文句が来た場合には職工が悪いとか腕が未熟であるとか、自己の営業上悪い材料を仕入れて来た責任を全然職工になすりつけるといふ我儘横着をやる。なんでも数多く早く生産するのが坂井の方針だ、少々位悪い物があっても好い加減でよいと現に職工に言ってゐる。だから五年の保証付きが二年より保てないことになるのは一面は又当然である。嘗てある時発動機製作所の四天王として、久保田、山岡、坂井、戸畑が農工新聞に掲げられたことがあった。その時坂井庄次郎が職工一同に対して面に山岡、東に坂井ありといふ記事を読み上げて誇らげに吹聴したことがあったが、今や今回のストライキによって四天王の正体がバクロされたわけである。更に坂井のインチキ発動機ありと訂正されなければならぬ。

特約店の利益さへも横取りする坂井の貪慾

坂井工場は全国各地に特約代理店を設けて製品の販賣とその普及に努力してはゐるが、如何せん生れつきの我利々々亡者だから特約店の收める些細の利益でもとられるのが惜しいと見えて、特約店の販賣区域内の顧客から直接に注文を受け、直接に賣掛け、僅か五円か三円の利益さへも特約店に与へることを惜しむ。特約店の怒るのも無理はない。何のための特約店か分らなくなる。そんなことで他の競争工場から漸次販路の蚕食を受けつゝあるのも笑止千万だ。工場内で年期契約や覚書を何回も破棄し、偽りの電報を従業員の親元に打つ、言ふたことは少しも信を措くことの出来ない、この筆法で特約店を出し抜き、インチキ製品を造るのだ。坂井といふ人間は何処までも、骨の髄までも食言、背信、偽善で固り切って居るのだ。

得意先及競争工場に坂井の正体をバクロ

坂井が昨日の葛飾署に於ける会見交渉に於て未だその非常識頑迷不レイを清算し切れず相変らずの不誠意を示したるを以って争ギ団首脳部は代表者会議の討議を経て愈々第二段として彼坂井が有する事業上、金融上に於ける信用、即ち得意先及競争工場に対し坂井の信用に打撃を与ふる戦術を採用することになった

江東地方労働組合抗ギ会の活動

江東地方に於ける労働組合を網羅する江東地方労働組合抗ギ会は本日（十日）抗ギ会を開催し坂井争ギ団代表の出席を求め一度斗争経過を聴取したる後坂井工場ストライキをして勝利せしむるために、又今回のストライキは単に坂井に於ける労働者に加へられたるのみならず全労働階級に対する搾取、抑圧、暴虐なりとする建前から之れが争ギを徹底的に応援斗争するために江東地方労働者の名に於て抗ギすることに決定し近く大挙して坂井工場主に抗ギ文を突きつける筈である。

各工場に対する組織的アヂテーション開始さる

坂井ストライキを広汎な労働者斗争に転換するための第一の仕事として争ギ団では「斗争ニュース」による各工場の不平不満を發表することを原則として次の要項が決定され直ちに実践に移されることになった

一、各工場オルガナイザー會議を設けること、
一、各オルガナイザーの受持工場を決定すること
一、ニュースの反響及当該工場の不平不満を調査し報告すること
一、各オルガナイザーは当該工場の活動的分子を訪問し坂井ストライキの真相を理解せしめ彼らの要求と結合せしめてアヂテーションし、争ギ団訪問を勧告する
一、各オルガナイザーの分担工場を地域的に分類すれば

▲葛飾方面＝本庄、関田ゴム、三昌ゴム、大日本製菓、大和ゴム、ベルベット、大日本紐の小菅製紙の各工場
▲向島方面＝資生堂石ケン、ミツワ石ケン、金星ゴム、鈴木起毛、一源、羽田ベルト、石川ゴム、花王石ケンの各工場
▲浅草方面＝美倉ゴム、日本染織、小穴製作所、大日本紡績
▲新興毛織の各工場
▲本所方面＝日本電線、ライオン石ケン、長瀬帽子、吾嬬鉄工所